

## 公民科（公共）学習指導案

## 1 単元名 コロナ期間で見えた日本の課題

この単元は、「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の「(1)主として法に関わる事項」と「(2)主として政治に関わる事項」に該当する。

## 2 単元目標

- (1) 人権を調整する公共の福祉の意義、国会、内閣、地方公共団体の権限について理解する。
- (2) コロナ期間に起きた事象について諸資料を根拠に思考、判断することを通して、日本の課題について考察し、表現する。
- (3) 日本の課題について、学びを調整しながら学習に取り組む。

## 3 単元の指導計画（全体6時間）

## (1) 指導計画

・基本的人権	3時間（本時2/6）
・国会と内閣	1時間
・地方自治	1時間
・まとめ	1時間

## (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人権を調整する公共の福祉の意義、国会、内閣、地方公共団体の権限について理解している。	・コロナ期間に起きた事象について諸資料を根拠に思考、判断することを通して、日本の課題について考察し、表現している。	・日本の課題について、学びを調整しながら学習に取り組んでいる。

## (3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (3)	【学習課題】<単元を貫く問い> 「コロナ期間で見えた日本の課題は何か？」	【ねらい】基本的人権の内容を概観する。 【ねらい】 ・新しい人権、公共の福祉について理解し、考えを深める。	●	○		【思】 (4) ア参照	・ワークシートの記述内容を基に評価する
	【学習課題】「コロナ期間で制限された人権は？」						
第2次 (1)	【学習課題】「コロナ期間に国会、内閣がしたことは何か？」 ・国会、内閣	【ねらい】国会や内閣の権限を理解し、施策について考察する。				●	・授業プリントの記述内容を基に評価する
第3次 (1)	【学習課題】「コロナ期間に愛知県がしたこととは？」 ・地方自治	【ねらい】愛知県の施策について考察する。				●	・授業プリントの記述内容を基に評価する
第4次 (1)	・単元テスト 単元で扱った知識と、プリント1の内容を再度問う。	【ねらい】ここまでの学びについて振り返る。			○	【主】 (4) イ参照	・ワークシートの記述内容を基に評価する

## (4) 評価規準

## ア ワークシートの評価規準【思考・判断・表現】

「公共の福祉の定義」と「関係法令」を根拠に、考察し表現している。
----------------------------------

## 判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・「公共の福祉の定義」か「関係法令」のいずれかについて、根拠をもとに合理的な判断をしている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・「公共の福祉の定義」と「関係法令」のどちらについても、根拠をもとに合理的な判断をしている。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・「公共の福祉の定義」と「関係法令」のいずれについても、根拠をもとに合理的な判断ができていない。→「公共の福祉の定義」と「関係法令」について確認する。

## イ ワークシートの評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

授業内容を踏まえて、日本の課題について述べている。
---------------------------

## 判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・一つの授業内容を踏まえ、日本の課題について記述している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・二つ以上の授業内容を踏まえ、日本の課題について記述している。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・記述内容が授業内容を踏まえていない。→これまでの学習内容を一緒に振り返る。

## 4 本時の指導と評価の計画

## (1) 本時の目標

ア 新しい人権と公共の福祉について理解する。

イ コロナ期間における国会、内閣、愛知県の施策を振り返り、日本の課題を考察する。

ウ 公共の福祉の意義について理解を深め、判例を考察・表現させる。

## (2) 本時の展開（2時間分）

（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・グループ分け	・グループに分かれ、本日の学習課題を確認する。	
展開 1 1	・協働ワーク ・プリント①	・協働ワークで知識を整理した後、プリント①のワークに個別に取り組む。	・プリント①のワークの記述内容を共有する時間を設ける。 ●【主体的に学習に取り組む態度】
展開 2	・プリント②	・プリント②ワーク1を記述する。 ・プリント②ワーク2を記述する。 ・プリント②ワーク3を記述する。	
展開	・判決の考察	・プリント②ワーク4を記述する。	○プリント②ワーク4 【思考・判断・表現】
まとめ	・共有	・他者と記述内容を共有した後、実際の判例を確認する。	

## (3) 本時の評価規準

## 3 (4) ア参照

## 5 成果と課題

### (1) 協働ワークについて

生徒が知識を概念として習得するだけでなく、考察する際のツールとなるように生徒が協働的に文章の正誤判断をしていくという形式を取り入れた。具体的には、①教科書の内容をプリントにまとめる、②そのプリントだけを見て、○×形式の問題をペアで解く、③答え合わせの際に、簡単な補足説明をする、という流れで進めるもので、授業者が教科書の内容を説明して生徒が理解するという形ではない。協働ワークでは、生徒が自ら学び取ろうとする姿勢を促すことができるのがメリットだと考えている。

### (2) 思考・判断・表現の評価について

評価結果は右のとおりであった。「公共の福祉」の観点から実際の判例を考察させた後に、他者と意見を共有することを通して、人権を調整する原理について深く考えさせることができたと考えている。

思考・判断・表現		
A評価	B評価	C評価
28%	72%	0%

### (3) 主体的に学習に取り組む態度の評価について

プリント①ワーク4では記述できない生徒が多かった。その後、単元のまとめで、授業内容を踏まえて日本の課題を考える場面での記述を評価したところ、結果は右のとおりであった。多くの生徒が、単元の初めの頃は記述できなかった「日本の課題」について、まとめの際には記述できるようになっていたことは一定の成果だと考えている。一方で、C評価が18%だったことは課題である。

主体的に学習に取り組む態度		
A評価	B評価	C評価
43%	39%	18%

「学びが定着しているか」「学びを活用できるか」について、こまめに把握し、生徒の学習を支援する必要性を感じた。